

か。なぜ、規則正しい、理性的な生活を営まねばならぬのか。「人には色々なと理解しにくい問題がたくさんある。ここに、超自然的な、全知全能、完全な真理、愛、美であるという人間にとつて漠然として神というものを仮りに存在を認めると、この様な事柄は全て、神の御業によるものとなり、一応に納得しうる。真に都合のいいことではないか。しかし、僕は神の存在を理解し認めたい。それは前例の様な場合、「いや、鬼が雲の上で太鼓をたたいてるなんて事はない。今の我々では、理解出来ないだけであつて、他に何らかの理論的な、科学的にも説明のつく理由があるはずだ。」と、心には思えど、根拠がないので、黙っている者と同じ様に、心に何となく感じる事柄なのである。しかし、まだ、今の世界では神が存在する方が、生活上いろいろと都合がいい事は確かだ。僕は宗教や倫理が教える道徳や礼儀は喜んで受け入れる。少なくとも、悪い事は教えていない。僕は神を理解したいし、またその存在を欲し、神があるものと仮定して生活したい。以上は僕の感ずるところであり、これは、飽くまで、「感」であつて、これが「真」だとは断定する事は出来ない。何となく、僕が思う事柄である。僕は京都に生まれ、仏法の家に生まれ、親類にはお坊さんもいるし、小さいながらも寺の住職もいる。その僕が運命の定めのままにミッシェルに入學し、西洋のキリスト教に接し、その精神に感銘し、その生活原理を自分の生きる支柱として居る。これが、僕の、今の正直な宗教感である。僕は、この大自然、大宇宙の中の、ほんの小さい存在。僕を取り巻く、この大宇宙や大自然の壮大偉大さに、僕を感ずる。